

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392000507		
法人名	株式会社大木家		
事業所名	まちのオアシス グループホーム前田 (1ユニット)		
所在地	愛知県豊橋市前田町1丁目7-7		
自己評価作成日	平成29年8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392000507-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392000507-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成29年10月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームは、今年度初めて介護運営を実施しており、介護において試行錯誤をしながら進めている状況では御座います。しかし、初めてであるからこそ、馴れ合いやなアナあではなく、できる限りお一人おひとりにあったサービスの提供としててまごころ込めた接遇をさせて頂くと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただきます。  
また当グループホームは、ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒にを基本として認知症のお年寄りをありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援しています。お年寄りの方が一方的に介護を受けるのではなく、職員と共にご自分のペースで、出来る範囲で日常生活にかかわって頂き生きがいを持って頂くよう支援致します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

豊橋駅や市役所、警察署など市の公官庁に近い街中に事業所が位置し、平成29年3月31日に開所している。小規模多機能型居宅介護事業所が1階にあり、2階、3階がグループホームとなっている。広く明るい室内の設備は、最新のものが備えられ、壁やフロアなどの落ち着いた色合いで清潔な大人の生活空間を漂わせている。壁には視覚を邪魔にしない程度の手作り作品や絵画が程よく飾られている。食卓とソファコーナーが分離され、好みや用途に合わせた居場所の使い分けが出来るようになっている。職員は、「ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒に」を基本に気持ちと皆と揃えながら、支援に繋げるように努めている。事業所が中継点となった、「RUN伴」にのぼりを立て、ユニホームを揃え参加して喜びを分かち合っている。街中の利便性を活かし、車椅子を動かしながら町を散策したり馴染みになりつつある喫茶店でのコーヒータイムを楽しみにしている。明るいリビングで入居者同士がおしゃべりを楽しんだり、ソファに座りテレビや、新聞などを心行くまで見たりして穏やかに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 まちのオアシス グループホーム前田 (1ユニット)	理念における共有を実施し、実践に繋げる努力をしている。	理念は事務所に掲示し、毎日出勤時に確認している。玄関にはファイリングして置き、いつでも誰でも手に取って見られるようにしている。月3回の全体会議で理念について話し合いをし、「自分らしさを大切に、安全で安心して暮らせる家」を目標に職員同志が理念を共有して実践につなげるよう努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には散歩に出かけ地域の方との交流の機会を持っている 地域のお祭りには参加できるときには参加させていただいている。	町内会に加入し、地域の掃除や草取りなど積極的に参加し交流を深めている。タスキをつなぐ「Run伴」では、事業所が中継点となり入居者や職員が一致協力して応援に参加している。日々の散歩で、日常的に挨拶を交わし地域とのつながりを大切にしている。中学生の体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催の際に認知症における情報の発信を心掛けている。 地域のお祭り等に率先して参加し、ご入居者様との触れ合いの中で地域での理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出てきた内容を職員に周知し、内容によって導入を進めている。	入居者、家族、自治会長、民生委員、市や包括の職員の参加を得て実施している。日ごろの活動の様子や事故報告、地域との情報交換などが行われている。提案や意見は記録され職員会議やケース検討会議などで協議し、運営に活かしている。家族には会議案内や議事録を郵送している。	家族の参加が少ないので、参加者から希望を聞いたり勉強会等の計画も考慮したり内容を工夫して、より多くの家族が参加できるように、事業所から積極的に発信する機会を作るように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点や問題点等について都度相談を実施し、できる限り市との連携関係を築けるように努力している。	認定書類や申請の代行業務など機会あるごとに市の担当窓口を訪れ、相談や指導、アドバイスを受けたり情報交換をしている。市主催の研修には積極的に参加して連携を密にし、協力関係を築くように心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修を実施し、職員全体における身体拘束をしないケアの取り組みを意識している。但し玄関施錠含め、サービス階層において防犯の観点で施錠等をしている場面もある。	「自分らしさを大切に、安全で安心して暮らせる」を目標に職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを整備し、研修等に力を入れている。日々のケアの中で、言葉の拘束や心の拘束に注意し、その人にあったケアができるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に内容を把握し、虐待等の防止に心掛けている。 特に入浴の際での痣や状態の変化に意識を置き介助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在理解が出来ていない部分もあるので、今後の課題として実施をしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書における読み合わせの実施をしている。また、捺印等も場合により後日にさせていただき、一定の時間を設け契約を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、電話連絡時、面会時に機会を設けている。	入居者からは日々の関わりの中から聞き取り、家族からは面会時や行事、運営推進会議など機会あるごとに意見や要望を聞くようにしている。記録をして、カンファレンス等で話し合い運営に反映している。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所内において従業員用の意見箱を設置しており、意見が出てきた際に都度問題の解決及び可能な内容については運営に反映をしている。	日々の業務の中や申し送り時、月3回の全体会議で職員からの意見や提案を聞き、見直しや改善に向けて話し合い運営に反映させている。職員との個別面談が半年に1回あり、将来に対する目標や意見・要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内において担当をおき、担当での職員面談を定期的実施している。 職員配置も含め、改善を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けている。又施設内でもミーティング時に勉強する機会を設けている。 また、認知症における基礎研修や実践者研修の参加を可能な範囲で複数名に受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の部会の会員に入らせていただき交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、即時入居ではなく、ご本人様のADL・IADL状況を踏まえてできないことを把握し、できる限り安心した生活をできるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、ご家族様における意向確認を実施している。 また、あいさつや電話連絡を実施し、関係性をより深めていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内や他サービスの利用も考えた中でご入居の検討を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできることは出来るだけ実施していただくようにしている。特に洗濯物干しや洗濯物たたみ等、自身でできる内容については最大限お願いしておこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、ご入居者様への面談をお願いしている。ご家族様で行えることは出来る限りお願いして運営をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様における人間関係等のヒアリングも実施しているが、できていない部分が多々あり、馴染みの人が面談にくるような環境までは築けていないため、今後改善が必要と捉える。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握しケアに活かせる様に努めている。食事の片づけや洗濯物を畳むなどの家事をして、今まで培った経験を日常に活かすような支援を大切にしている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係性の情報を共有し、開所して1年の事業所であるが、今だからこそできる支援をしていくことを望まれる。また、新しい環境の中で地域との関わりを深め、新しい場所、物、人などの馴染みの関係を作り上げていくことを期待したい。さらには、本人の趣味や特技など生活の中で継続できるような環境支援を望みたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士での関係を支援するために、全体でのレクレーションや毎月の行事を実施している。個々での関係性も築けてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退去者が1名になり、入居期間も短ったため、こちらの取り組みについてできていない状況がある。今後退去者が発生した場合は取り組んでいきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りその人の思いや暮らしの希望を確認し、意向に沿ったサービス提供心掛けている。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを日報や全体ノート、介護記録などに記録し、職員間で共有してケアに繋げている。入居して間もない方は、職員が寄り添って声掛けをし、安心して話せるような環境作りにも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りその人の思いや暮らしの希望を確認し、意向に沿ったサービス提供心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態を確認し、状態に変化があった際は職員間で情報共有を実施し、対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランにおいて、ご本人様・ご家族様、職員等の意見を聞き、できる限り現状に即した介護計画を実施している。	モニタリングは1か月に1回行い、介護計画は、2か月に1回施設会議で問題や課題について話し合い、見直しをしている。必要があれば在宅医師や看護師の意見を反映したり、状況に応じて随時の見直しもしている。本人や家族とも話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録を詳細に記載し、計画更新の際には状況を把握し、反映の上、再度計画作成を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を踏まえ、既存のサービスだけに囚われず、その時々にあったサービス提供をできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源における把握ができていない部分もあるため、今後の課題ではある。ボランティアや本人たちの好きな内容を把握し、サービス提供に心掛ける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在在宅診療を実施し、かかりつけ医での提供希望がある場合は変更せずに実施をしているが、送迎や緊急時のことを勧める中で在宅医での意向になっている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。提携医により月2回～3回の往診があり、24時間適切な医療を受けられるように支援している。看護師とは、バイタルチェックなど健康管理に努めている。歯科や眼科などの専門医の受診は、家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が施設内において日中帯に1名おり、その者及び在宅診療医師への相談等を日々実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	アセスメント等を詳細に作成しており、緊急救急搬送時においても適宜対応できる体制を整備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期においてご家族及び在宅医と調整を実施し、救急搬送対応及び緊急時対応におけるルールを明確にしている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努めている。将来的には看取りができる事業所として準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全体における応急手当や初期対応の訓練は出来ていない部分があるため、今後実施していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画・災害計画を作成し、防災訓練の実施もしている。地域との協力体制については今後の防災訓練の際に同席等も促し、協力体制を整備していく。	1回目の訓練は消防署立会いの基、昼間想定で避難経路の確認と防災訓練の実施をした。備蓄品については本社に十分な備えがあるため、事業所の備えは水や食料など2～3日程度準備している。	夜間想定避難訓練は未実施なので、消防署立ち会いの基に、夜間体制の訓練を実施していくことを願いたい。また、想定外の災害を予想して、防災訓練や運営推進会議の中で検討し、地域との協力体制を整備していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉づかいや声掛けに注意をし、サービス提供を実施している。	「人生の先輩」を基本に、入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、声掛けや目線に配慮した支援に心掛けている。職員は、日々のカンファレンスや朝礼で、特に雑になりがちな言葉使いに配慮し、支援に努めている。また、職員の業務に対する姿勢を整えるため接遇などの研修も考えている。	声掛けや目線に配慮した支援に心掛けている中で、職員の表情の硬さや目線の高さがケアの中で見受けられる。理念の中に「私の笑顔で相手を笑顔にしよう」を再度職員で共有しケアに繋げていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々声掛けを実施し、ご本人様の意向や主張を確認し自己決定できる場面を作るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間軸を主軸とはしているが、できる限りご本人様のペースに合わせて時間を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやおしゃれができるように声掛けや更衣介助を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように定期的にイベント食やおやつレク等も取り入れサービス提供を実施している。	毎日の食事が楽しみになるように季節の食材を取り入れた献立で、味付けも工夫している。事前準備や後片付けはその人の能力に合わせて職員と一緒にしている。おやつ作りは職員が見守り中、ホットケーキ、ゼリー、フルーチェなどを手作りし飲み物は好みのものを選び楽しんでいる。	一層、食事が楽しく頂けるように、味付けや出来ばえについてなどの会話をしながら職員も検食を兼ね、入居者と一緒に食事をすることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量等を意識している。また、水分摂取についても注意をし、少ない場合においては声掛けをし摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施し、ご本人様での実施の場合も声掛けや見守りを実施し、清潔保持を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、個々に声掛けを実施している。失敗が多いご入居者様においては声掛けや排泄介助や一部介助を実施している。	座位での排泄支援に心がけている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、適切な支援をしている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の恐れがある場合は在宅医や看護師に相談し、水分摂取や投薬状況を把握し、改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望は確認し、入浴におけるタイミングを検討している。現在においては各自よりの要望も少ないため、決められた時間において入浴を実施することによりスケジュールを覚えていただいている。	入浴は週3回午後入浴時間としている。お湯は一人ひとり入れ替え気持ちよく、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。冬季はヒートショックに配慮したり、季節を感じるゆず湯なども楽しんでいる。設備が新しく浴槽が可動式のため介護度が変わっても支援ができる体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、無理はサービス提供をせず、疲れた場合の休息や適宜安眠を促している。睡眠がしっかりとれるよう、できる限り静かな環境を整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬の一覧を確認し、各自が服薬状況を把握している。また、看護師が適宜状況を把握しており、在宅診療の兼ね合いにおいて調剤においても都度持参いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や役割、趣向を踏まえ、できる限り楽しく過ごせるように心掛けている。また、状況により散歩等も実施し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出を実施している。職員での実施が難しい場合等においては家族と相談し、場合により家族での外出を実施していただいている。	日常的に買い物や近隣の公園の散歩など、外気に触れることができるように心掛けている。コーヒーの好きな入居者は家族と毎週馴染みの喫茶店に出掛け継続支援を大切にしている。輪投げ大会に参加し、他事業所の入居者と共に交流する機会を持つことができた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来ていない状況もあるため、今後金銭使用をイベント等にて実施を検討する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度電話等は実施できていないが、イベント等の考えにおいてご家族への手紙やはがきの作成等を実施したいと考えます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において生活感や季節感を感じれるように清潔で居心地の良い空間をできるだけ整備している。	2階、3階が居住スペースで、南側の大きな窓から明るい日差しが入り、清潔な食堂と居間がワンフロアの共用スペースになっている。季節感が感じられる作品が飾られ、キッチンからは入居者の動きや気配が見渡せるようになっている。開放感のある居間では、ソファでくつろぎテレビを見たり洗濯物を畳んだりして日常の生活を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において利用者通しで触れ合う場所として共同のテーブルを配置し、個別で一人になりたい場合はソファで入れるように共用空間の居場所づくりを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においてご本人様を使い慣れた物や好みの物を配置し、できるだけ居心地が良いように工夫している。	居室に鏡のある洗面台が備え付けられ、身支度や歯磨きは居室でできるようになっている。壁面収納の大きなクローゼットが備え付けられているため、空間を広く使えるよう工夫されている。筆筒、テーブルなど自宅で使用していた物を持ち込んで安心できる環境作りをしている。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部において全体バリアフリーにて安全を整備している。また、できることやわかることを活かすために屋上の開放やご自身でできる事は行っていただく環境を整備している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392000507		
法人名	株式会社大木家		
事業所名	まちのオアシス グループホーム前田 (2ユニット)		
所在地	愛知県豊橋市前田町1丁目7-7		
自己評価作成日	平成29年8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392000507-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392000507-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成29年10月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームは、今年度初めて介護運営を実施しており、介護において試行錯誤をしながら進めている状況では御座います。しかし、初めてであるからこそ、馴れ合いやなアナあではなく、できる限りお一人おひとりにあったサービスの提供としててまごころ込めた接遇をさせて頂くと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただきます。  
また当グループホームは、ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒にを基本として認知症のお年寄りをありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援しています。お年寄りの方が一方的に介護を受けるのではなく、職員と共にご自分のペースで、出来る範囲で日常生活にかかわって頂き生きがいを持って頂くよう支援致します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

豊橋駅や市役所、警察署など市の公官庁に近い街中に事業所が位置し、平成29年3月31日に開所している。小規模多機能型居宅介護事業所が1階にあり、2階、3階がグループホームとなっている。広く明るい室内の設備は、最新のものが備えられ、壁やフロアなどの落ち着いた色合いで清潔な大人の生活空間を漂わせている。壁には視覚を邪魔にしない程度の手作り作品や絵画が程よく飾られている。食卓とソファコーナーが分離され、好みや用途に合わせた居場所の使い分けが出来るようになっている。職員は、「ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒に」を基本に気持ちと皆と揃えながら、支援に繋げるように努めている。事業所が中継点となった、「RUN伴」にのぼりを立て、ユニホームを揃え参加して喜びを分かち合っている。街中の利便性を活かし、車椅子を動かしながら町を散策したり馴染みになりつつある喫茶店でのコーヒータイムを楽しみにしている。明るいリビングで入居者同士がおしゃべりを楽しんだり、ソファに座りテレビや、新聞などを心行くまで見たりして穏やかに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 まちのオアシス グループホーム前田 (1ユニット)	理念における共有を実施し、実践に繋げる努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には散歩に出かけ地域の方との交流の機会を持っている 地域のお祭りには参加できるときには参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催の際に認知症における情報の発信を心掛けている。 地域のお祭り等に率先して参加し、ご入居者様との触れ合いの中で地域での理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出てきた内容を職員に周知し、内容によって導入を進めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点や問題点等について都度相談を実施し、できる限り市との連携関係を築けるように努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修を実施し、職員全体における身体拘束をしないケアの取り組みを意識している。但し玄関施錠含め、サービス階層において防犯の観点で施錠等をしている場面もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に内容を把握し、虐待等の防止に心掛けている。 特に入浴の際での痣や状態の変化に意識を置き介助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在理解が出来ていない部分もあるので、今後の課題として実施をしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書における読み合わせの実施をしている。また、捺印等も場合により後日にさせていただき、一定の時間を設け契約を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、電話連絡時、面会時に機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所内において従業員用の意見箱を設置しており、意見が出てきた際に都度問題の解決及び可能な内容については運営に反映をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内において担当をおき、担当での職員面談を定期的実施している。 職員配置も含め、改善を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けている。又施設内でもミーティング時に勉強する機会を設けている。 また、認知症における基礎研修や実践者研修の参加を可能な範囲で複数名に受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の部会の会員に入らせていただき交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、即時入居ではなく、ご本人様のADL・IADL状況を踏まえておくことできないことを把握し、できる限り安心した生活をできるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、ご家族様における意向確認を実施している。 また、あいさつや電話連絡を実施し、関係性をより深めていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内や他サービスの利用も考えた中でご入居の検討を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできることは出来るだけ実施していただくようにしている。特に洗濯物干しや洗濯物たたみ等、自身でできる内容については最大限お願いしておこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、ご入居者様への面談をお願いしている。ご家族様で行えることは出来る限りお願いして運営をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様における人間関係等のヒアリングも実施しているが、できていない部分が多々あり、馴染みの人が面談にくるような環境までは築けていないため、今後改善が必要と捉える。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士での関係を支援するために、全体でのレクリエーションや毎月の行事を実施している。個々での関係性も築けてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退去者が1名になり、入居期間も短いため、こちらの取り組みについてできていない状況がある。今後退去者が発生した場合は取り組んでいきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りその人の思いや暮らしの希望を確認し、意向に沿ったサービス提供心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りその人の思いや暮らしの希望を確認し、意向に沿ったサービス提供心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態を確認し、状態に変化があった際は職員間で情報共有を実施し、対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランにおいて、ご本人様・ご家族様、職員等の意見を聞き、できる限り現状に即した介護計画を実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録を詳細に記載し、計画更新の際には状況を把握し、反映の上、再度計画作成を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を踏まえ、既存のサービスだけに囚われず、その時々にあったサービス提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源における把握ができていない部分もあるため、今後の課題ではある。ボランティアや本人たちの好きな内容を把握し、サービス提供に心掛ける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在在宅診療を実施し、かかりつけ医での提供希望がある場合は変更せずに実施をしているが、送迎や緊急時のことを勧谿する中で在宅医での以降になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が施設内において日中帯に1名おり、その者及び在宅診療医師への相談等を日々実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	アセスメント等を詳細に作成しており、緊急救急搬送時においても適宜対応できる体制を整備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期においてご家族及び在宅医と調整を実施し、救急搬送対応及び緊急時対応におけるルールを明確にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全体における応急手当や初期対応の訓練は出来ていない部分があるため、今後実施していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画・災害計画を作成し、防災訓練の実施もしている。地域との協力体制については今後の防災訓練の際に同席等も促し、協力体制を整備していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉づかいや声掛けに注意をし、サービス提供を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々声掛けを実施し、ご本人様の意向や主張を確認し自己決定できる場面を作るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間軸を主軸とはしているが、できる限りご本人様のペースに合わせて時間を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやおしゃれができるように声掛けや更衣介助を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように定期的にイベント食やおやつレク等も取り入れサービス提供を実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量等を意識している。また、水分摂取についても注意をし、少ない場合においては声掛けをし摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施し、ご本人様での実施の場合も声掛けや見守りを実施し、清潔保持を実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、個々に声掛けを実施している。失敗が多いご入居者様においては声掛けや排泄介助や一部介助を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の恐れがある場合は在宅医や看護師に相談し、水分摂取や投薬状況を把握し、改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望は確認し、入浴におけるタイミングを検討している。現在においては各自よりの要望も少ないため、決められた時間において入浴を実施することによりスケジュールを覚えていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、無理はサービス提供をせず、疲れた場合の休息や適宜安眠を促している。睡眠がしっかりとれるよう、できる限り静かな環境を整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬の一覧を確認し、各自が服薬状況を把握している。また、看護師が適宜状況を把握しており、在宅診療の兼ね合いにおいて調剤においても都度持参いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や役割、趣向を踏まえ、できる限り楽しく過ごせるように心掛けている。また、状況により散歩等も実施し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出を実施している。職員での実施が難しい場合等においては家族と相談し、場合により家族での外出を実施していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は出来ていない状況もあるため、今後金銭使用をイベント等にて実施を検討する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度電話等は実施できていないが、イベント等の考えにおいてご家族への手紙やはがきの作成等を実施したいと考えます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において生活感や季節感を感じれるように清潔で居心地の良い空間をできるだけ整備している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において利用者通して触れ合う場所として共同のテーブルを配置し、個別で一人になりたい場合はソファで入れるように共用空間の居場所づくりを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においてご本人様を使い慣れた物や好みの物を配置し、できるだけ居心地が良いように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部において全体バリアフリーにて安全を整備している。また、できることやわかることを活かすために屋上の開放やご自身でできる事は行っていただく環境を整備している。		